

大桑 第166号 9月号 まさたか



さかえく せかい か
栄区から横浜を変える！

JR大船駅・JR本郷台駅・JR港南台駅で配っています！

栄区から、しがらみのない市政(政治)を実現します！

市議員4期目
よろしくお願ひします！

市議員としての約束

- 1、選挙の前も選挙の後も駅前に立ち続け新聞(広報)を配り続けます。
- 2、大桑まさたかの政務活動費を公開し続けます。
- 3、私たち市民が市政(政治)に参加する流れをつくります。
- 4、子や孫のために持続可能な横浜(社会)をつくります。

約6兆1,312億円 → 約4兆5,712億円

横浜市の借入金残高ですが、平成27年度の決算が確定し、平成27年度末で4兆5,712億円となりました。平成26年度末の横浜市の借入金残高が、4兆6,656億円でしたので、この1年間で944億円減少したことになります。

次に、私が市議員になった時に発表された平成14年度末の借入金残高は、6兆1,312億円でしたので、その時と比べると1兆5,600億円減少したことになります。

横浜市の人口は2019(平成31)年ごろまでは増加すると予想されていますが、日本の人口は、すでに減少に転じています。人口が減少すれば、市税収入なども減少していきますので、横浜市の人が増加している今から、借入金を縮減していかないと将来世代(子や孫)に過度な負担(増税など)を押し付けることになります。

最後に、現在の横浜市は順調に借入金を返済しておりますが、今後も、様々な施策を見直す必要がありますので、ご理解・ご協力頂けるようお願いいたします。

大桑新聞

プロフィール

第166号(9月号)

大桑正貴(まさたか)

連絡先

横浜市議員 大桑正貴(市政報告書)

〒247-0005 神奈川県横浜市栄区桂町688-4-601

TEL : 045-892-5187

FAX : 045-892-5187

H P : <http://m-okawa.net/>

E-mail : m-okawa@mvg.biglobe.ne.jp

昭和48年(1973年)7月4日生まれ横浜育ち 血液型A型

横浜市立小山台小学校入学

大分県立大分舞鶴高校入学(1年次冬、転勤で横浜へ戻る)

神奈川県立大岡高校卒業

神奈川大学法学部法律学科卒業

平成14年(2002年)12月 アシスト株式会社退職

平成15年(2003年)4月 横浜市議員 初当選

平成19年(2007年)4月 横浜市議員 2期目当選

平成21年(2009年)9月 明治大学 専門職大学院卒業

平成23年(2011年)4月 横浜市議員 3期目当選

平成27年(2015年)4月 横浜市議員 4期目当選

JR大船駅・JR本郷台駅・JR港南台駅、いずれかの駅で配布しております。

7月分の収支報告(収入は政務活動費55万円/毎月)

平成28年度7月現在の政務活動費累計残高は**一108,226円**です。

今月の支出の内訳

調査研究費	50,000円	資料作成費	0円
研修費	0円	資料購入費	7,375円
広報費	427,301円	人件費	0円
広聴費	0円	事務所費	82,097円
会議費	0円	事務費	12,585円

7月の支出合計は

579,358円です。

近況報告

平成28年第3回市会定例会ですが、平成28年9月6日(火)から平成28年10月18日(火)で開催される予定となりましたので、ここでお知らせします。この定例会では、平成27年度の横浜市の決算について議論をする特別委員会なども開催される予定となっています。

最後に、私の事務所について、繰り返しになりますが、常時、人がいる体制をとっていません。お手数をおかけしますが、事務所に連絡をして頂いた際には、留守番電話へのメッセージ、またはFAXをお願い致します。

横浜市の水道について

我々、横浜市民が飲む水を運ぶ水道管は、現在、横浜市内に約9,100kmあります。この水道管は、改めて言うまでもありませんが、一定の期間がたてば更新をしなければいけません。そして、現在、横浜市水道局は、年間約110kmのペースで水道管を更新しています(年間約110kmのペースで水道管を更新しても、約9,100kmを更新するには約80年かかります)。

これらの水道管の更新費用は、皆様が支払っている水道料金が原資となっています。今後も、今と同じように水道管を更新していくためには、今までと同じくらいの水道料金の収入が必要になります。しかし、家電製品の節水化や水道水よりペットボトルの水を飲む方が多くなるなど、水道料金の収入は、平成13年度の約789億円をピークに、平成26年度には701億円まで減少しています。

今後も横浜市として、安定的に水を供給すると同時に、水道料金も安定させていく必要はあると考えています。しかし、同時に、表面でも書かせて頂きましたが、平成31(2019)年には、横浜市の人口が減少することが予想されており、水道管の更新費用を捻出できなくなる可能性が出てきます。

もちろん、これからも横浜市水道局のさらなる経営努力や新たな技術を開発する必要があると思います。しかし、それと同時に、横浜市の水道を安定的に供給するため多くの費用がかかっていることや水道管を更新するための原資である水道料金収入が減少していることを知って頂ければと思います。

大船駅北口の再開発について

先月の大桑新聞でも書かせて頂きましたが、9月8日(木)と9月11日(日)に再開発についての説明会がありますので、再度、お知らせをします。

この説明会は両日とも19時から、鎌倉芸術会館でおこなわれる予定となっており、当日は直接、会場に来て頂ければ、再開発についての説明を聞くことができます。

私も、この説明会の後に、改めて、大桑新聞で大船駅北口の再開発についてお知らせできればと思っております。しかし、この件については、色々な場所で、多くの方から「いつ工事が始まるのか?」「工事はどのように進むのか?」などと聞かれますので、お時間があれば会場に足を運んで頂ければと思います。



大桑新聞ではみなさまとともに、
栄区について考えていきたいと思っております。

HP : <http://m-okuwa.net/>

E-mail : m-okuwa@mvg.biglobe.ne.jp